二年序）である。之は編輯者も、詩の作者等も一切不明であるが、獨善的の人々が伯夷を弔ふ會をした集であるらしい。折角かゝるものを得た以上出版したいと思うてゐるが、本日の講演を緣として御紹介する次第である。（文責在記者）

漢文教育に關する諸問題

內野台嶺

こゝに漢文教育に關して、私の平素考へてゐることをお話しようと思ふのであるが、私の話しは大體これを三段に分つことが出來る。卽ち

第一、漢文教育が如何に論ぜられてゐるか。

第二、その議論に對する自己の意見。

第三、それ等に關する資料。

がそれである。然し第三の資料に就いては未だ材料が十分に集つて居らず、第二の私見に就いては可成りの時間を要する故、今日は第一の現今に於ける漢文教育に辭する議論を紹介しようと思ふ。隨つて今日の話は極めて常識的で、既に各處で論ぜられて居る事を項目を分けて羅列するに過ぎない。

一體漢文教育の問題は、專門學校大學等に於いては別箇のものであるから之を省き、主として中等學校に於ける狀況を取扱ふものである。昨今は此の問題も稍〻靜まつてゐる樣であるが、何時また勃發するか分らぬ。扨此の問題は又幾つかに分けて考へられるが、私は第一、漢字。第二、漢文第三、辭書。第四、教科書。第五、教授上。の五問題に分たうと思ふ。而して今各〻の問題に關する議論を擧げれば、

一、漢字の問題

イ、漢字廢止の問題

a　エスペラントに代へんとする説

b　假名に代へんとする説

1　片假名を用ひんとする説

2　平假名を用ひんとする説

3　新たなる假名に代へんとする説

c　ローマ字に代へんとする説

1　標準式に依らんとするもの

2　日本式に依らんとするもの

（かくの如く様々の議論はあるが、結局は漢字廢止を主張するものである。彼等は、支那本國に於いてすら、既に注音字母を用ひてゐるのであるから、日本で漢字を用ひる必要はないといふのである、然し支那で注音字母が行はれるといつてもそれは一部分だけで、現在未だ新聞雜誌等は從來のまゝなのであるから、支那では既に改まつたといふのは早計である。

次に日本の假名に改めようとするのも困難である。それは讀みにくい爲に、時間的に隨分不經濟である、嘗て成蹊學校で雜誌に之を試みたことがあるが、頁數のみ增してくるので、この方面から反對する人があつた。以上の論は凡べて漢字を廢してしまはうとするものであるから、從つて當然漢文廢止を主張することになる。）

ロ、漢字制限の問題

a　字數の制限

b　字劃の制限

（後者は報知新聞等でも試みたことがあり、或程度まで贊成出來る案である。前者は漢字整理案等に據つて屢〻常用漢字を作つたが、極めて曖昧なものであり、一八五八字に減じたものも、未だ全體の人からは認容されて居ない。而してこれも亦漢文廢止の前提となるものである。）

二、漢文の問題

イ、漢文不必要論

a　漢文は形式上、內容上とも現代に生命なきものであるとの論

1　形式上。漢文の形は今日一般には行はれぬものであり、之を日本流に讀んで

も、その句調は現代に交渉がない。新しい文章は之を必要としない、と說く然し之にも相當議論があつて、それだから今日の文にしまりがなくなつたともいへる。

2 內容上。漢文の思想は一口に古くさいものであり、內容も陳腐で、現代人の心に觸れるところがない、と說く。然し、それは說く人に依り又解釋の施し樣に依つて現代に生きるものがあるとの反對說も成立つ。

b 漢文有害論

1 漢文漢語が國文國語の發達を阻害する。

2 漢文の思想は尙古のみで進步がない。凡て理想を過去に求めて退嬰的である

3 所謂左傾に對する右傾を刺戟し奬勵することになる。之は馘首、國賊、斬奸等の漢語調の强きに依り、又復讐、暗殺思想を盛つた內容が多いためであるとする。之には一面の眞理もあるが、然し未だ一を知つて二を知らないものであらう。

c 漢文の內容は認めるが、原形に依る必要なしとの論。

1 我々が漢文を讀むのは、國語で讀み且つ解するのである。從つて原形に依る必要なく、書下しでよろしい。

2 書下しで意味の取りにくい時は飜譯すればよい、然しこれは古典の味を出すことが困難である。

3 漢字漢文はその修學上、時間的に又能率的に無駄ばかり多くて、効果は少い。一般人は漢文の原形を知らなくても生活は出來、形式等は特殊な研究者に任せておけばよい。而して只思想のみ取るには原形に依る必要はない。

ロ、漢文は或る程度まで必要であるが、その範

圍を制限する必要ありとの論。
卽ちこれは下級には課せず、上級になつてから課さうとするので、贊成者は仲々多く、昭和六年一月に改正せられた中學校令施行規則では、二年生以上に課することに定めた。本校附中では以前より二年から課し、又廣島高師附中及び府立三中では三年より課してゐた。此等の人の論旨は、

a　初年級では漢文の思想內容の把握は困難である。

b　初め國語を十分に學んで、夫に依り語彙を豐富とし、句調に馴れさせておくと、上級での進歩が早い。

c　一年生で、英語、漢文と二つの新學課が增すと急に難しくなる故、敎育上妥當でない。

d　一年で國文法を學んでから、後に漢文を課す方がよい。

（現代は思想問題の喧しい折柄とて、漢文廢止の問題は影を潛めて居るが、上級にのみ課さうとの案は贊成者が多く、爲に昭和六年の文部省の改正案では二年より課すことゝなり、一年では只國語の中で、漢文の入門に資す可き材料を課すことになつたのであるが、其の文句が曖昧で、從つて結局假名交り文を交へることになつてしまつてゐる。（そして二年に二時間、三年は二——三時間、四五年は二——三時間である。）

三、辭書の問題

辭書の不完全が、延いて漢字及び漢文制限の問題に大なる影響を與へてゐる。現在の辭書には部首引、全劃引、音引、及び新方法の引き方、等が用ひられてゐるが、尙不完全で工夫の餘地が多い。

四、敎科書の問題

現在の敎科書は甚だ統一を缺いてゐる。

イ、形式上。1　編纂的のもの。2　拔萃本。

3　兩者の併用。4　完本。

ロ、內容上。1　文學的のもの。2　道德的のもの。3日本的のもの。4　支那的のもの。

ハ、改修問題

教科書の文字語句及び內容の改修問題は如何にすべきであるか。之にも樣々の議論がある樣である。

五、教授上の問題

イ、目的の設定

從來の教授要目に依れば、漢文は國語の中に含まれて、色々な目的が列擧され、漢文獨自の目的は明示せられてゐない。從つて教授者にも教授目的が明瞭に分らず、內容を主とするか、形式を主とするかに迷つた者もある。

ロ、時間數の問題

初年級では廢止したが、二年より五年に至る間の時數の增減を如何にすべきであるか。

ハ、施行範圍の問題

實業學校及び高等女學校等にも課す可きであるか否か。

ニ、讀み方の問題

a　文語の形に讀んで意味を說明する在來の法。

b　口語に直して讀む法。

c　棒讀にする法。

棒讀にしても、漢音で讀むか、或は現代の支那音で讀むか、こゝにも大きな問題があらう。

以上に擧げたところは、論爭になつてゐる問題を只羅列したに過ぎない。諸君の研究に依つて明快な解決を下されることを期待するわけである。

（文責在記者）